

沖縄県産のハスジマハゼ (新称) *Cryptocentroides insignis* について

明仁 親王・目黒 勝介

On Gobiid Fish *Cryptocentroides insignis* from
Okinawa Prefecture, Japan

Prince Akihito and Katsusuke Meguro

沖縄県産のハスジマハゼ(新称)
Cryptocentroides insignis について

明仁親王・目黒 勝介
(1974 年 9 月 9 日受領)

On Gobiid Fish *Cryptocentroides insignis*
from Okinawa Prefecture, Japan

Prince Akihito and Katsusuke Meguro

Five specimens of *Cryptocentroides insignis* (Seale) collected from Ishigakijima, Okinawa Prefecture are described here with a new Japanese name, "hasujimahaze". The specimens examined well agree with the description and the figure by Seale (1910 : 116, pl. 2, fig. 1) and the description by Herre (1927 : 234).

(The Crown Prince's Palace, Moto-akasaka, Minato-ku, Tokyo, 107, Japan)

ハゼ科魚類の肩胛骨に関する前報(明仁親王, 1967: 171)で沖縄県石垣島産の *Cryptocentroides insignis* (Seale) の標本を用いたが, このたび本種に新和名ハスジマハゼを附し, その形態の特徴について報告する。ハスジマハゼの和名は体側の斜めのしまに基づいている。 *C. insignis* に関しては Seale (1910 : 116, pl. 2, fig. 1) の記載の他に Herre (1927 : 234, pl. 18, fig. 3*) による模式標本と他のフィリピン産の 1 個体をもとにした記載がある。日本産のハスジマハゼ (Fig. 1) の特徴は Seale (1910 : 116, pl. 2, fig. 1), Herre (1927 : 234) の記載や図によく一致する。なお, 属名については, はじめ Herre (1927 : 235) は疑問をもちながらも本種を *Amblygobius* 属に含めていたが, 後に *Cryptocentroides* 属に編入している (Herre, 1953 : 741)。

材 料: 角括弧内は 個体数, 丸括弧内は 標準体長

(mm) を示す。LICPP (Laboratory of Ichthyology, the Crown Prince's Palace, Tokyo) 1967083, 沖縄県石垣市 (石垣島) 名蔵川河口, 故斎藤芳一氏採集, III : 27 : 1967 [1] (50); LICPP 1967084, 同上, [1] (55); LICPP 1968304, 同上, IV : 2 : 1968 [2] (45~47); LICPP 1971185, 同上, 崎枝湾に注ぐ小川の河口, X : 28 : 1971 [1] (27)。

記 載: 以上の 5 個体の計数値は Table 1 に示した。頭部は前鰓蓋部後縁の位置では高さ, 幅ともほぼ同じであるが, 体部は胸鰭基部の位置ですでに側偏している。眼隔域は眼径の 1/2 より狭い。前鼻孔の突出は小さく, 上唇上縁に達しない。上顎より下顎が長い, 主上顎骨の後端は眼の前部の下まで達する。上下両顎骨とも外側の 1 列の歯は大きく, 内側には小歯が叢生する。下顎外側歯の後端の歯は最も大きく, その位置は下顎のはほぼ中間にある。舌端は円い。鰓孔下端は腰帯の前端よりも後方にある。腹鰭の膜蓋は平滑であり, 癒合膜に切込みはない。背鰭前部正中線上に皮質隆起があり, その前端は前鰓蓋骨後縁の位置よりも前方に達する。

頭部は無鱗, 体前部は円鱗, 後部は櫛鱗で覆われている。

感覚管は前報(明仁親王, 1971: fig. 1A)に従って記すと, 眼肩胛管に開孔 B*, C (単一), D (単一), E, F, G, H', K', L, 前鰓蓋管に開孔 M, N, O' がある (Fig. 2)。C と D の間の感覚管は単管であり, 前報の fig. 1A の AB 間, HK 間等の感覚管の消失部分が認められる。孔器列は Fig. 2 に示した。

頭部から尾部前部にかけて濃暗色点散在する。背鰭前部に 2 薄暗色横帯がある。第 2 背鰭下の体側に数列の薄暗色斜線, 尾柄部に 2 暗色横帯がある。第 1

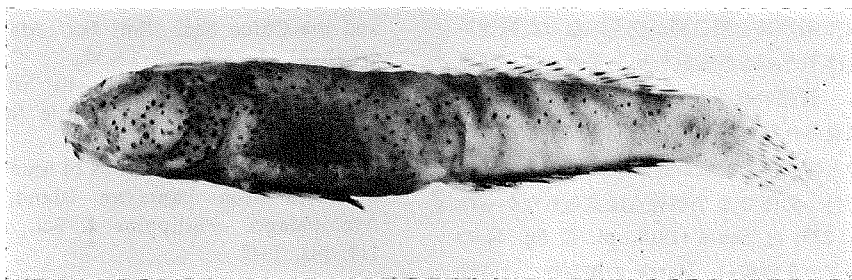


Fig. 1. *Cryptocentroides insignis* (Seale), specimen (LICPP 1968304, 47 mm in standard length) from Ishigakijima, Okinawa Pref.

* 図は Seale (1910 : pl. 2, fig. 1) による。

*' を附したものは前報(明仁親王, 1971: 58, fig. 1A)では中間開孔となる位置にある感覚管端開孔を示す。

Table 1. Counts of *Cryptocentroides insignis*.

LICPP Cat. Nos.	1968304-1	1968304-2	1967084	1967083	1971185
Total length (mm)	59	56	67	59	34
Standard length (mm)	47	45	55	50	27
Dorsal fin rays	VI-I, 13	VI-I, 13	VI-I, 12	VI-I, 12	VI-I, 12
Anal fin rays	I, 12	I, 12	I, 12	I, 12	I, 12
Segmented caudal fin rays	17	17	9+8=17	9+8=17	17
Pectoral fin rays	15	15	15	15	16
Pelvic fin rays	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5
Scales in a longitudinal series	70	69	72	72	70
Scales in a transverse series	32	28	30	30	31
Branchiostegals			5*	5*	
Gill-rakers			4+12=16*	4+11=15*	
Vertebrae			10+16=26*	10+16=26*	

* Stained with alizarin red.

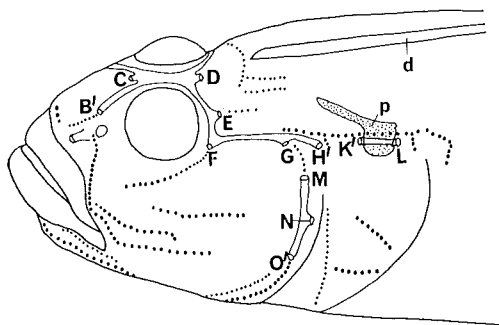


Fig. 2. Schematic illustration of sensory canals and pit organs of *Cryptocentroides insignis*. B'...O', sensory canal pores; d, dermal median ridge; p, post-temporal.

背鰭にはその基部近くに1暗色縦線があり、暗色縦線の後部の上方にさらに1暗色縦線がある。この2暗色縦線の下方は薄暗色である。第2背鰭と尾鰭に基部から先端に向かって暗色部と明色部が交互になった模様がある。臀鰭には下方に暗色部があり、その中に小明色点が散在する。臀鰭の基部近くには濃暗色点がある。胸鰭に模様は見られない。暗色の腹鰭では臀鰭の暗色部にあるものと同じ小明色点が散在する。なお、暗色の弱い腹鰭を持つ個体では小明色点は見られなかった。Herre (1927: 235) は Seale (1910: pl. 2, fig. 1) の図にある頭側部の2斜線が、Herre の観察時には時間の経過によって消失していたと記している。この2斜

線は日本産の標本でも見いだされなかった。

咽舌骨は細長く先端は戟形である。上下両後鎖骨は見られない。第1背鰭の第1、第2担鰭骨は第3、第4脊椎骨の神経棘の間にあり、第3、第4担鰭骨は次の神経棘との間にある。第2背鰭の第1、第2担鰭骨は第9脊椎骨の神経棘にまたがっている。第1背鰭の最後担鰭骨と第2背鰭の第1担鰭骨の間には2本の神経棘がある。

これを書くにあたり、種々助言して頂いた東海区水産研究所阿部宗明博士、日本ルーテル神学大学教授上野輝弥博士ならびに東宮侍従八木貞二氏、同富士亮博士に対し深く感謝の意を表す。計数値などは坂本勝一総理府技官の協力を得た。深く感謝する。

引用文献

明仁親王. 1967. 続ハゼ科魚類の肩胛骨について. 魚類学雑誌, 14 (4/6): 167~182, figs. 1~4.
 Herre, A. W. 1927. Gobies of the Philippines and the China Sea. Bur. Sci., Manila, Monograph 23: 1~352, pls. 1~30.
 Herre, A. W. 1953. Check list of Philippine fishes. U. S. Fish and Wildlife Service, Res. Rp., 20: 1~977.
 Seale, A. 1910. Descriptions of four new species of fishes from Bantayan Island, Philippine Archipelago. Philippine J. Sci., 5 (2): 115~119, pls. 1~2.

(107, 東京都港区元赤坂 東宮御所)